



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA - CENTENNIAL

c/o YMCA INTERNATIONAL PROGRAM CENTER
 Dojima Grand Bldg., 1-5-17
 Dojima Kita-ku Osaka 530 JAPAN
 PHONE (06)344-1717

OCTOBER.1986.IV - 4



1986~1987 THEME

「行動の伴った議論を！」—Deeds Not Words Shall Speak—IP
 「心を一つにチャレンジ」—For One And For All Through The Y'S Dom—RD
 「明日に向かって力強く前進しよう」—Onward Tomorrow—DG
 「Y'S Men! Be Romantic」—P

Thought for the Month

And he said to them, "Go into all the world
 and preach the gospel to the whole creation.

(MARUKO 16:15)

そして彼らに言われた。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」

(マルコによる福音書第16章15節)

WOMEN IN ACTION



WOMEN IN Y'S DOMを考える月

10月例会プログラム

日時 10月15日(第3水曜日) 6:30~8:30PM

場所 大阪YMCA会館 9F

司会 藤井君

1. 開会と挨拶
2. ワイズソング
3. 聖句朗読
4. ゲスト紹介

森会長
 一同
 浦野君
 森会長

5. 日々の糧を 一同
6. POT LUCK
7. 話し合いの窓をひらく ゲスト 橋本和子姉
8. テーブル毎にガヤガヤ
9. お誕生日祝い
10. 各委員会報告, YMCAニュース
11. 閉会 森会長

第2例会は10月29日6:30PM奉仕センターでいつもの通り。お忘れなく。

今月例会当番(第3班)藤井, 谷川, 浦野, 桂, 照屋, 長安, 早いめに来場し会場準備, あと片付けなどご協力を期待します。

今月の聖句によせて

米国のTVにはよく伝道集会在映され、その終りに数多くの決心者が列をなして前のステージへ集まってくる光景に驚かされます。

この聖句はマタイによる福音書にも記されているのと同じ主イエスの御命令であります。伝道はこの御命令に基づくものであり、神から世に遣わされされてい

る教会の重要な使命であります。それは単にキリスト教の知識を伝えるに止まらず、未信者を信仰に導く福音を伝達することです。

6年前の10月、世界的伝道者Billy Grahamが日本の各地で行った伝道集會を思い起し、更めて伝道の責務を考えるものであります。

福永嘉彦

今月のことば

強調テーマ “WOMEN IN Y'SDOM” について

プログラム委員会

10月の日本区テーマはWELLNESSと知らせをうけていますが国際のテーマはEXTENTION-Y'SMEN-Y'SMENETTESとあります。クラブは自主的にテーマを選んで一向さしつかえないし、その方が、個性があって面白いと考えてWOMEN IN Y'SDOM — ワイズ運動における女性、その意味と役割とでも解して、わがクラブではこれをどう取扱うか、そのため今月はこのテーマをかかえて、女性メンバープラスメネットさん — わがクラブのWOMENと男もとの話し合いを、それこそ森会長テーマのBE ROMANTICなフンイキのうちに自由勝手に話し合う例会にしたいのです。WOMEN達はPOT LUCKディナーを用意される由、男どもユメユメ油断なさるな。

WOMENの強いセンテナルをめざし、このテーマが年間クラブの話題となること、年末5周年チャーター記念日にそなえてWOMENの活躍が展望できます。そ

して1988年夏の京都国際大会に備えブラザークラブの来訪をあたたくもてなすセンテナルWOMENの美しい姿を夢みると万才と言いたくなる。トシを考えず、これは一寸飛んでいるかな。

さて、話し合いの糸口を作って頂くために絶好のワイズの友をむかえました。今年、国際メネット事業主任になられた神戸クラブの橋本和子さんです。和子さんは日本区メネット主任、アジアエリアメネット主任も歴任され、こんどは世界全体のいわばメネット会長さんとなられました。桜内美津子さんにつづいて日本からは二人目の就任。大いにサポートも致しましょう。

9月例会には森田直子さんを迎えてYEEPを学び最近の最高出席率でした。女性ゲストを迎えると出席率があがる。WOMENに弱いセンテナルボーイズ足もとをしっかりと。



スクマラン国際会長夫妻と一緒に
谷川メネット、城メネット（神戸）、
橋本メネット（神戸）は誰かとおしゃべり……？

HAPPY BIRTHDAY

- | | |
|-----------|-------------|
| 正司 泰子姉 | 10・24 |
| 彼岸花 | (自由奔放な恋) |
| 藤本まち子メネット | 10・20 |
| 兼六香菊 | (栄華、風格) |
| 安福 節子メネット | 10・17 |
| 清水千草 | (平和を愛する心) |
| 山村 利子メネット | 10・9 |
| きび | (一人でもいいのです) |



Hello!

日本語教育について

担当主事 真島 克成

「日本語を勉強して私は美容学校に入り、国に帰ってお店を持ちたい」とフィリピンから来たTさんは目をかがやかせて私に語ってくれました。

「日本の大学で観光行政と経営の勉強をするため今は入学試験に合格するため一日一日たいへんです」と目を赤くはらした。韓国から来たKさんがオフィスにきました。

大阪YMCAの日本語学校にはこのような私費留学生が100人以上います。現在6ヶ月以上、平均して1年間は日本語会話や、大学や専門学校の入学のために必要な日本語の勉強、さらに英語、理工科系の学校に入る人には数学の授業もあります。

日本語学科 全日制コース在籍生

・新入生 46人

台湾	18人	中国	7人
韓国	11人	香港	2人
タイ	1人	ネパール	1人
フランス	1人	カナダ	1人
イタリア	1人	アメリカ	1人
インド	1人	メキシコ	1人

・継続生 56人

台湾	14人	中国	11人
韓国	18人	香港	4人
タイ	5人	ネパール	1人
カナダ	1人	フィリピン	2人

集中コース(10週間)には主にアメリカ、ヨーロッパ系を含んで、約45人が在籍しています。

上の人数と出身地べつべつの10月が在校生です。

それ以外に10週間で日本語会話をマスターしようがんばっている比較的欧米系の人が多い集中コースというクラスも設置され、約40名が在籍しています。

大阪YMCAがこのような外国人のために日本語教育を開始したのは大阪に万博が開始された(1970年)前年でした。当時は英語学校のアメリカや、イギリス人の先生のほか、少しづつ増え始めた外国からの駐在員、その主婦たちでした。

今日ではむしろアジア諸国からの私費留学生のための6ヶ月か1年コースの全日制日本語コースの方が人数

も増えました。

一つの理由は、やはり日本経済の国学的地位、その影響力、日本企業や日本・日本人との関係の仕事、情報が増えたことにありましょう。又、日本文化・日本語そのものに対する興味をもつ人間が増えてきたことにあります。

実際、日本の物価指数と特にアジア諸国、中南米諸国とくらべますと生活費も高く、学費、大学・専門学校の授業料も高く感じます。生活が仲々苦しく、留学生ビザ以外の人は正規にはアルバイトもできませんし、するにしても入管に理由を書いて許可を得るということにもなります。

日本語習得、かりに大学に入ったり専門学校に入っても、そこでの日常授業についてゆくのは仲々むずかしいようです。

こういう状況の中で生活におわれながら一生懸命留学生は勉強しているわけです。

2、3日前、タイから来たDさんが涙をうかべて私の所にやって来て、どうしても国に帰らざるを得なくなりましたと語りました。理由は、日本の保証人との関係で、6ヶ月の日本語勉強で来たのですが、もっともっと勉強したいと思ったが、それ以上お金もないし、保証人にめいわくをかけたくない、そうかといって、アルバイトをしてやるにしても、どのようなアルバイトができるかわからないし、私もとにかく一度帰国して、タイで引き続き日本語の勉強をし、出来れば日本との関係の仕事を見つけた方がいいと助言もしました。

この秋からは、いろいろな人たちのために3人の留学生に、1人5万円程度ですが、6ヶ月の学費の一部を奨学金として支給することになりました。

又、日本人の大学生、大阪YMCAカレッジの学生、社会人などがボランティアとして日本語学習のチューターがConversation Partnerになって奉仕してくれています。すでに12~3人の人たちが来てくれています。大学に入った留学生も国際ボランティア International Volunteers of YMCAとの名称で、数人ですが後輩のために奉仕してくれています。

今日はこの辺にして いつか 又実際留学生との交流の機会ももうけたいと思っています。

THE CENTENNIAL

NEWS IN BRIEF

EMPHASIS THIS MONTH

< 国 際 >

< 日 本 区 >

EXTENTION (Y'S MEN & MENETTES)

ウエルネスの月

9月第一例会 9月17日 (水)

☆ ゲストスピーカー

メネット事業主任 森田直子姉 (京都ウエスト) によって、アンフォークナーを一年間娘として預った貴重な体験談をうかがった。

森田直子姉▶



☆ ビンゴゲーム盛り上げる

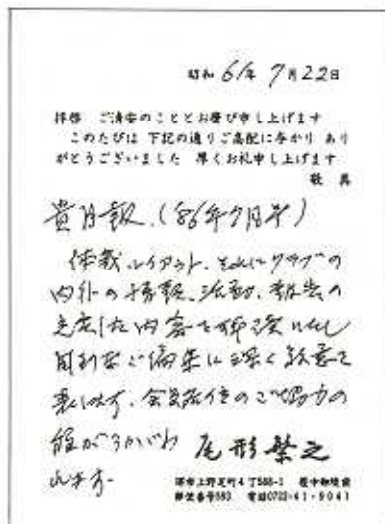


ビンゴ、イの一番は皆本君
賞品は世界の時刻早わかり時計です。



リーチで起立「早く来てね」とメネットさん

☆ 日本区名誉理事尾形繁之さんより



Statistics (統計)

9月例会出席状況 (在籍会員38名)		ニコニコ 献 金	B F ポイント	ファン 9月末累計
メ ン	27名	ビンゴわ入 25,800円	9月 切手 3,074P	212,486 円
出 席 率	71%		現金 1,300P	
メネット	5名			
コメント	0名	ニコニコ献 金は右欄の ファン に繰入れてあ ります。	累計(4~9月) 切手12,852P	
ヴィジタース	1名		現金11,860P	
計	33名			

尾形さんは元大阪YMCA理事長 (大阪クラブ)。このたび第二代日本区名誉理事となられた日本区ワイズの超大先輩です。

DATES
for
MAKE-UP & FELLOWSHIP

OCTOBER ~ NOVEMBER

DATE	MEETING	SCHEDULE	DATE	MEETING	SCHEDULE
10.15 WED	センテニアル①		2 SUN		
16 THU	河内, 和歌山		3 MON		
17 FRI	泉北		4 TUE	サウス	
18 SAT			5 WED	枚方	
19 SUN			6 THU		
20 MON			7 FRI	長野	
21 TUE			8 SAT	奈良	
22 WED	センテニアル②		9 SUN		
23 THU			10 MON		
24 FRI			11 TUE	大阪	
25 SAT			12 WED	千里, 高槻	
26 SUN			13 THU	堺, 田辺	
27 MON			14 FRI		
28 TUE			15 SAT		
29 WED			16 SUN		
30 THU			17 MON		
31 FRI			18 TUE	土佐堀, 豊中	
11.1 SAT	紀の川		19 WED		



日本YMCA大会・青年会議に BIKE FOR PEACE 報告

来る10月25~26日、日本YMCA同盟東山荘で第6回日本YMCA大会が開催されます。特に今年は直前の24日~25日、青年会議を開き、YMCAに集っている青年たちの活動の報告を通し、「YMCA-青年-」の参画にスポットライトをあびせます。

大阪YMCAからは、当国際社会奉仕センターが主催事務局をいたしました。第2回目の“BIKE FOR PEACE”（8月1日~8月6日、アメリカの高校生らを含んで約85名参加）のレポートを参加者の一人が行います。

神戸国際青年平和会議 11月に開催

神戸YMCA創立100年記念の一環でもある日本YMCA同盟主催の国際青年平和会議は来る11月22日~25日、神戸を会場にして、「平和への挑戦-かけがえのないいのちを守るために-」というテーマのもとで開かれます。この会議にはタイ・韓国・タヒチなど

の海外からの参加者30名と日本各地のYMCAの青年約30名が集まり、交流と研修の場をもちます。

この秋、2つの音楽プログラム

インド音楽と踊り “ジョル シャゴール”

10月13日（月）午後6時30分~8時30分
大阪YMCA会館ホール

バイオリンの夕べ

アッカルドの協奏曲、-テレマン室内管弦楽団協演 世界的に活躍しているイタリアのバイオリニスト、アッカルドが日本公演ただ一つ室内管弦楽団との協演で小ホールでの演奏会を希望しました。

大阪YMCA会館ホールで11月22日（土）6時30分開演。現在前売券発売中です。

ともに国際社会奉仕センター 国際文化センターにお問合せ下さい。

THE CENTENNIAL

IBO WORLD NETWORK



AUGUST 1986

BROTHER CLUB UPDATE

KAN TANIKAWA writes recalling their visit to the 50th State last summer. KAN expressed appreciation of the hospitality extended for the homestays, sightseeing tours provided, and the social activities held in their behalf by the Club.

Regarding the formulation of the triangular tie between the Osaka Centennial Y's Men's Club, Nuuanu Y's Men's Club, and the Bauhinia Y's Men's Club of Hong Kong, KAN informed that he has not heard further on the subject matter and awaiting word from the Hong Kong Club.

Regarding the International Pacific Youth Convocation to be held at Camp Erdman, KAN informed that there will be three young ladies participating. MIKI TANIKAWA was encouraged to attend, but was committed to another engagement.

Regarding the 1988 Kyoto International Convention, KAN writes that he is one of the host convention committee's deputy chairmen, and advised that all Nuuanu Y's Men are invited. KAN also expressed that members from the Bauhinian Club will be attending, and that, perhaps, the triangular tie could be established at that convention.

CALENDER OF EVENTS

1987年中西部新年合同例会

日時 1987年1月18日(日)

会場 千里阪急ホテル

(千里中央駅から東へ徒歩5分)

受付 午後 5時

開会 午後 5時30分

メインスピーチ

「ファッションと文化について」

講師 尾形丈二(千里クラブ)

(伊藤忠ファッションシステム㈱ 常務取締役)



NUUANU Y'S UP

NUUANU Y'S MEN'S CLUB NEWSLETTER
1441 TAD IAWY, HONOLULU, HI 96815
"To Acknowledge The Day That Accompany Every Right"

AUGUST 1986
VOLUME XII
ISSUE 3

57th INTERNATIONAL CONVENTION by STEPHEN WONG

The 57th International Convention was held on July 21-24, 1986, at Arhus, Denmark.

After traveling for one and one-half days, Sue and I arrived in Arhus and registered at the Vejby-Rieskov Congress Centre.

This was a time to renew old friendships and making new ones. (This was the highlight of our participation in the convention) We were able to meet with our Brother Club member, Mr. & Mrs. KAN TANIKAWA and Mrs. CHIA-LUNG KUNG a member of the Bauhinia Club of Hong Kong, a prospective brother club, and other Y's men from other parts of the world.

My personal and overall impression of the convention was that it was a very 'Christian' and 'singing' convention. Their Youth Convocation was well received by the over 150 participants.

GOINGS & COMINGS

○ 会員ニュース

安福又四郎兄は8月末、心筋梗塞で入院、経過良好、諸兄姉によろしくと夫人から伝言がありました。

○ カナダ、エドモントン大学での研究をおわり、杉浦眞喜子さん元気に帰国されました。

Bulletin Board

B F 委員からのお願い

B F ポイントの本年度の目標は一人4,000ポイントとなりました。(昨年までは3,000 pt) メンバー38名のわがクラブ目標は152,000 pt です。ところで8月までの累計実数は20,338 pt、来年3月の締切りまでに131,662 pt 集めねばならない計算です。これを38で割ると一人当たり3,465 pt の分担になります。中～大型の記念切手(一枚5 pt)に換算すると、693枚に相当します。ご家庭だけでこれを集めるのは無理でしょう。会社やオフィスでも協力してもらうような働きかけが大切。それで足りない所は現金ポイント(1 pt=1円)で代替して下さい。毎月の例会に全員が各自500ポイントずつ持参して載せてやっと思目標達成出来る計算です。どうしても例会に出席できない方はどうぞB F 委員の山田孝彦(〒657 神戸市灘区高羽町5-7-15-501)まで郵送して下さい。お願いします。

なお、普通切手は一枚0.3~0.5 ptとレートが低いのですが、数量がまとまればそれなりにポイントになりますので、プラスアルファとしてお寄せ下さるのは歓迎します。

切手提供者

掛江 黒田 上月 河野 小林 正司 鈴木 多田
田中 中村 長安 福永 藤本 松本 村田 森
山田 横山 桂

INTERNATIONAL YEAR OF PEACE 1986

From economic competition to respect for mankind

By Kentaro Shiozuki

Is there any possible way to put an effective brake on the endless nuclear arms race between the United States and the Soviet Union? Can we ever stop the ticking time bomb that has been driving us to the brink of human annihilation?

The whole world has been watching the talks between the US and the USSR with keen anticipation as to the outcome. However, we cannot help but recognise that the deep-rooted mutual distrust between the two countries easily blunts any voluntary momentum towards detente, thus edging the world toward assured catastrophe. Moreover, this world situation has had a great effect on our lives today in various ways.

In recent years, the cut-throat corporate rivalry among Japan and other industrialised powers for more advanced technology and bigger market shares has triggered global economic and trade frictions, having a serious impact on the every-day lives of people in many parts of the world. Corporations which survived the tough

We take for granted ongoing growth and progress and seem to have no choice but to endure numerous sacrifices to make our companies or our nation more fit for survival.

competition in Japan have now set their targets on overseas markets to remain competitive, engulfing local industries and companies into their sphere of power. Those who cannot compete in terms of technology and capital have no alternative but to go bankrupt, or to merge or become af-

filiated with the stronger companies.

In fact, companies, incessantly urged on by the tide of progress in science and technology and the rising call for efficiency, have to struggle endlessly through research and development and sales promotion in order to

The fear that we might be attacked with nuclear weapons paralyses our ability for rational judgement and even our fundamental human desire to wish not only for our own survival but for peaceful coexistence among all the peoples in the world.

survive. As a result, not only less competitive developing nations but also companies in advanced nations have been seriously affected. Many people have lost their jobs or been laid off and their lives have been hard hit by these difficulties.

We have to admit that our strong desire for the more convenient and the less expensive is the underlying cause of these problems. We take for granted ongoing growth and progress and seem to have no choice but to endure numerous sacrifices to make our companies or our nation more fit for survival.

Though in many fields, superb products have already been developed and marketed, we have to work incessantly, using even more resources, to develop new products which will ensure the survival of the company. Moreover, it seems that we are unable to achieve satisfaction without such efforts. This situation is gradually driving us to develop symptoms of social neurosis.

For example, the fear that we might be attacked with nuclear weapons at any moment unless we have a nuclear advantage, however slight that advan-

tage may be, paralyses our ability for rational judgement and even our fundamental human desire to wish not only for our own survival but for peaceful coexistence among all the peoples in the world.

Today this social neurosis, which has permeated our entire society and is manifesting itself in outbreaks of various forms of bullying, has created a vicious circle that isolates us from each other and makes us feel all the more anxious about our survival. We are too obsessed with it to consider others around us, let alone the situation of people in other countries around the world.

Japan, being the first nation to suffer the effects of nuclear weapons, and whose people are making every effort to abide by the Three Non-Nuclear Principles, can clearly demonstrate the

If we remain unconscious of the threat which we present to many people in the world through our demands for our own economic growth and our linking of survival with the worship of progress, then our peace movement can hardly hope to escape charges of one-sidedness.

absurdity and danger of the nuclear arms race which may lead us to destroy the whole planet in pursuit of our own survival.

However, if we remain unconscious of, or choose to ignore the threat which we present to many people in the world through our demands for our own economic growth and our linking of survival with the worship of progress, then our peace movement can hardly hope to escape charges of one-sidedness. □



こころの渇き

多田幸子

今年は殊の他不順な暑さできびしい夏となりました。季節の始めに少し体調を崩した私にはとても辛く健康に自信を失う様な思いがありました。そんな暑さの真盛りの八月、一人の患者さんが遠い旅立ちをされました。

その前夜私が夜勤に就いたのです。彼は生涯を縫製工の職人としてすごして来たせいか口数が少く半年の入院中は何を話し掛けても“うん”とか“いや”と答える位のものでした。

それでも若いナースとの話は楽しらしく野球のスコア等話していた事もあった様です。老人性肺炎で酸素のはなせなかった症状が一時は快方に向っていたのですが、うだる様な暑さつづきで体の衰弱が容態の急変となったのでしょう。倦怠感と発熱そして冷汗の持続にとっても苦しそうな夜でした。附添いに疲れ切った家族に補助ベッドで休んでもらい2、30分毎に病室を訪れる事にしました。何をなす術もない中で少しでも気分のよい様にと色々尽くしてみました。夜明けの早い夏の空が白み始めた4時頃彼の口から私の名が呼ばれる様になりました。部屋を訪れる迄待てなくな

たのでしょう。か細い声が未だ静かな病舎によく通りました。後で御家族から聞いたのですが最後まで呼んで居られたそうです。その後も私の仕事は相変わらずの毎日でした。そんな或る日テレビで尼僧の話をききました。別に特徴のある話ではありませんでしたが話を途中で切る事は出来ませんでした。そればかりかもっと何かを聞きたいもっと聞きたい、そんな気持ちにかられました。私は自分の心が枯れている事に気が付きました。心がやせて来ていたのでしょうか。無性に何か心に栄養を補う話をききたいと想う様になりました。

そんな時京都で禅定セミナーがあると聞き早速参加させて頂く事にしました。2泊3日の間特に教えと云う様な事はなかったですがじっと自分を見つめ直すのによい機会でありました。

毎日の生活を一ツツ振り返り思い返して心の調和を計る時、言葉で表せない温いものが体の中から湧いて出て来るのを感じました。そして心が楽になりました。これからも尚一層苦しい人々のお世話が出来たらいいのに、と思っています。此の夏余りに強く印象に残りましたので……ありがとうございます。

1986～1987 役員 (Officers)

会長	森 庄司	担当主事	眞嶋 克成
副会長	藤井 保男	幹 事	杉本 恭之助
"	平田 雅利	"	中村 隆幸
書記	松本 常晃	"	山田 孝彦
"	多田 幸子	直前会長	山田 孝彦
会計	山村 幸明		

事業委員会 (○は委員長)

BF	○山田, 多田, 柴田, 皆本, 桂
YEOP	○山中, 山村, 森
ASF, YMCA	○田中, 黒田, 安福
IBC	○堀, 松添, 横山, 杉浦, 阪田
Bulletin	○村田, 谷川, 福永
CS	○中村, 上月, 川越, 瀬戸
Program	○鈴木, 谷川, 長安, 村田, 杉浦
EMC	○河野, 掛江, 杉本, 中川
Fund	○平田, 浦野, 藤井, 照尾
Driver	○藤本, 杉本, 小林
MET	○正司, 福永
Menettes	○森

EDITOR'S NOTE WA I ZU MAN 和井寿 満のひとりごと

◎NHKの「みんなの歌」より

あるけ あるけ あーるけ!!
あるけ あるけ あるけ あるけ
ネアンデルタールみたいにあるけ
ベケン原人みたいにあるけ

あるけ あるけ あるけ あるけ
あるけ あるけ あるけ あるけ
足をのばして 骨をきませ 膝をならして
靴音たてて 汗を流して 心臓おどらせ
あるけ あるけ あるけ あるけ
あるけ あるけ あーるけ
人間みたいにあーるけ

◎ちくま文庫の帯カバーに「みんな青春」というタイトルで、次の様なことが羅列されてあった。

元気な青春・ダメな青春・涙の青春・甘い青春・アマイ青春・ドジな青春・怒りの青春・青春純生・ムダな青春・青春ヤメタイ・ヤバイ青春・無茶な青春・最後の一滴青春・お金のかゝらない青春・青春のおつり・オマケの青春・必死の青春 etc.

なんとなくほろにがい思い出で読んだが、さて、中年、実年、熟年にてはめるとどんな表現になるだろうか。

(ブリテン 村田貞夫 〒659 芦屋市朝日ヶ丘町3-8-305)
担 当 TEL 0797-32-9204